

3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系の状況

1. 植物の生育状況

(1) 陸域における植物

陸域における植物としては、維管束植物及び藻類が該当するが、事業実施区域は北九州市沖合であることから、植物の生育状況としては海域における植物を対象とし、本項では対象外とする。

なお、若松区には重要な群落として、芦屋海岸のトベラ低木林、須賀神社のスダジイ林及び白山神社のタブノキ林が特定植物群落に指定されている。その内、海岸沿いに位置するものとしては芦屋海岸のトベラ低木林が挙げられるが、事業実施区域には該当しない。

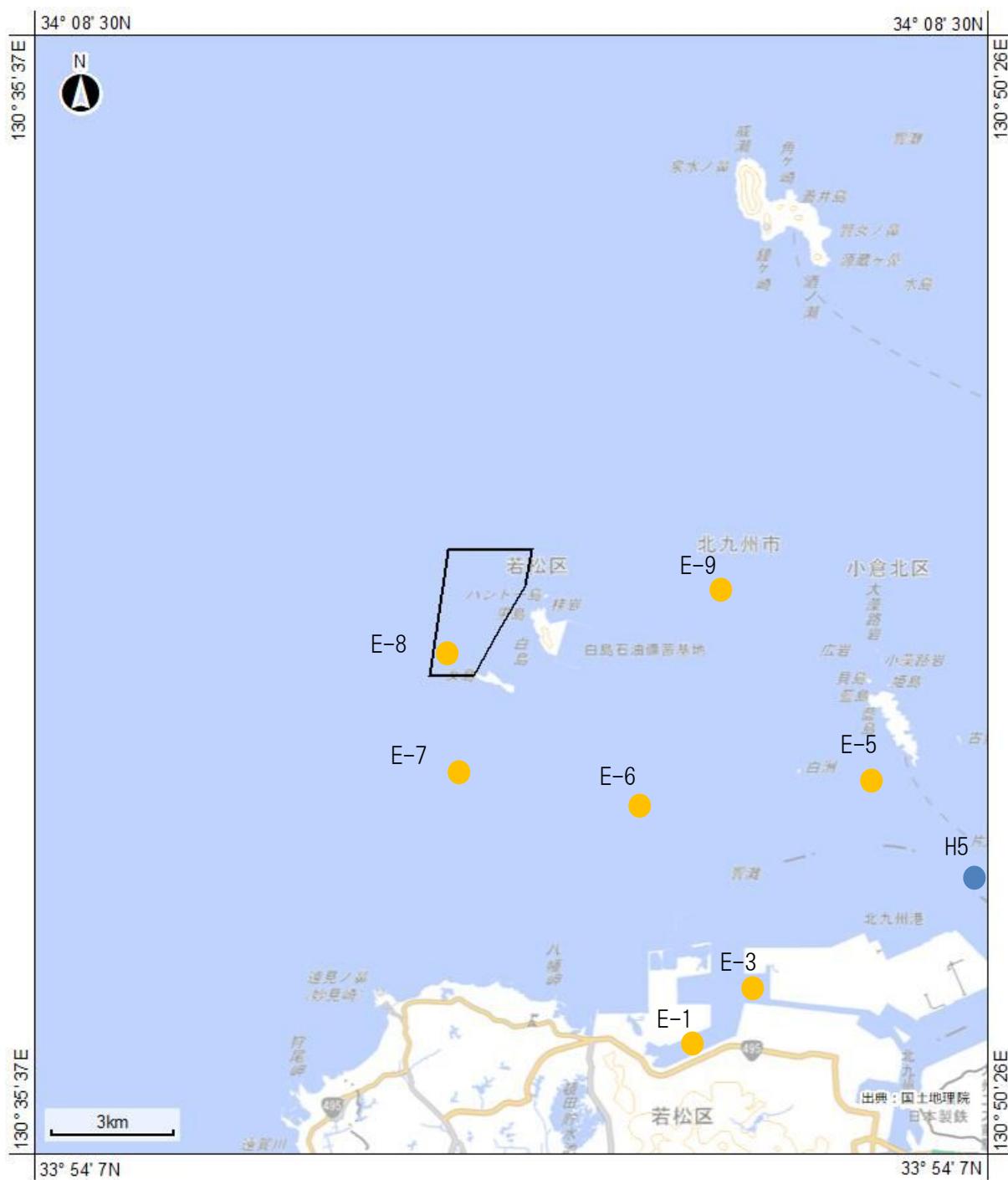
(2) 海域における植物

① 植物プランクトンの状況

事業実施区域周辺については、平成 25 年 5 月、7 月、10 月及び 12 月に北九州市環境局により調査が行われている。調査地点を図 3.1-15 に、調査結果を表 3.1-26～表 3.1-27 に示す。

事業実施区域内の地点 (E-8) における季節ごとの出現種数は 16～37 種で春季に少なく、秋季に多い。細胞数については春季に多く見られる。出現種については春季及び夏季に珪藻類の割合が高くなっている。

また、北九州市環境局が毎年、響灘（測定点 H5）においてプランクトン調査を実施している。令和 5 年度調査の植物プランクトンの結果を表 3.1-28 に示す。2 月は珪藻類のリゾソレニア及びキートケロスが多くなっている。



凡例

- 動植物プランクトン調査地点（北九州市環境局¹）
- 動植物プランクトン調査地点（北九州市環境局²）
- 事業実施区域

出典：*1 「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成 26 年 3 月、北九州市環境局
*2 「令和 6 年度版 北九州市の環境」（北九州市環境局）

図 3.1-15 動植物プランクトンの調査地点

表 3.1-26 植物プランクトンの調査結果 (1/3)

【春季】		調査時期：平成25年5月18日			
調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	23	30	29	9	
個体数 (細胞/L)	425,775	370,020	313,830	35,550	
沈殿量 (mL/L)	0.10	0.10	0.07	<0.01	
細胞数	クリプト藻類 渦鞭毛藻類 黄金色藻類 珪藻類 その他 合計	26,400 (6.2%) 14,375 (3.4%) 200 (0.0%) 368,000 (86.4%) 16,800 (3.9%) 425,775 (100.0%)	47,520 (12.8%) 26,490 (7.2%) 240 (0.1%) 281,850 (76.2%) 13,920 (3.8%) 370,020 (100.0%)	64,800 (20.6%) 18,360 (5.9%) 2,160 (0.7%) 187,230 (59.7%) 41,280 (13.2%) 313,830 (100.0%)	240 (0.7%) 480 (1.4%) 10 (0.0%) 33,860 (95.2%) 960 (2.7%) 35,550 (100.0%)
	優占1位	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (67.9%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (59.3%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (49.6%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (95.2%)
	優占2位	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (18.0%)	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (16.0%)	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (20.6%)	不明微小鞭毛藻 (2.7%)
	優占3位	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (6.2%)	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (12.8%)	<i>Prasinophyceae</i> アラシ藻類 (10.1%)	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (0.7%) <i>Prorocentrum triestinum</i> 渦鞭毛藻類 (0.7%)
調査地点	E-7	E-8	E-9		
種類数	16	16	30		
個体数 (細胞/L)	98,280	139,575	303,090		
沈殿量 (mL/L)	0.04	0.05	0.07		
細胞数	クリプト藻類 渦鞭毛藻類 黄金色藻類 珪藻類 その他 合計	11,520 (11.7%) 18,300 (18.6%) 0 (0.0%) 68,460 (69.7%) 0 (0.0%) 98,280 (100.0%)	20,400 (14.6%) 14,350 (10.3%) 1,200 (0.9%) 94,625 (67.8%) 9,000 (6.4%) 139,575 (100.0%)	10,800 (3.6%) 20,100 (6.6%) 480 (0.2%) 259,230 (85.5%) 12,480 (4.1%) 303,090 (100.0%)	
	優占1位	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (67.4%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (66.6%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (79.3%)	
	優占2位	<i>Peridiniales</i> 渦鞭毛藻類 (14.4%)	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (14.6%)	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (3.6%)	
	優占3位	<i>Cryptophyceae</i> クリプト藻類 (11.7%)	<i>Peridiniales</i> 渦鞭毛藻類 (6.6%)	<i>Peridiniales</i> 渦鞭毛藻類 (2.9%)	
調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	39	41	49	38	
個体数 (細胞/L)	764,200	715,725	397,300	90,150	
沈殿量 (mL/L)	0.16	0.15	0.13	0.27	
細胞数	クリプト藻類 渦鞭毛藻類 黄金色藻類 珪藻類 その他 合計	48,000 (6.3%) 8,600 (1.1%) 0 (0.0%) 657,200 (86.0%) 50,400 (6.6%) 764,200 (100.0%)	10,800 (1.5%) 16,650 (2.3%) 0 (0.0%) 666,675 (93.1%) 21,600 (3.0%) 715,725 (100.0%)	20,400 (5.1%) 14,050 (3.5%) 0 (0.0%) 321,050 (80.8%) 41,800 (10.5%) 397,300 (100.0%)	0 (0.0%) 4,650 (5.2%) 0 (0.0%) 81,180 (90.0%) 4,320 (4.8%) 90,150 (100.0%)
	優占1位	<i>Bacteriastrum delicatulum</i> 珪藻類 (25.0%)	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (24.9%)	<i>Leptocylindrus minimus</i> 珪藻類 (13.3%)	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (34.9%)
	優占2位	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (12.8%)	<i>Chaetoceros distans</i> 珪藻類 (14.6%)	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (10.3%)	<i>Bacteriastrum delicatulum</i> 珪藻類 (13.8%)
	優占3位	<i>Chaetoceros distans</i> 珪藻類 (9.9%)	<i>Chaetoceros compressum</i> 珪藻類 (11.1%) <i>Chaetoceros spp.</i> 珪藻類 (11.1%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (8.6%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (9.6%)
調査地点	E-7	E-8	E-9		
種類数	22	25	20		
個体数 (細胞/L)	35,520	46,950	55,160		
沈殿量 (mL/L)	0.15	0.14	0.23		
細胞数	クリプト藻類 渦鞭毛藻類 黄金色藻類 珪藻類 その他 合計	0 (0.0%) 4,230 (11.9%) 0 (0.0%) 28,410 (80.0%) 2,880 (8.1%) 35,520 (100.0%)	0 (0.0%) 225 (0.5%) 0 (0.0%) 42,525 (90.6%) 4,200 (8.9%) 46,950 (100.0%)	0 (0.0%) 40 (0.1%) 320 (0.6%) 48,080 (87.2%) 6,720 (12.2%) 55,160 (100.0%)	
	優占1位	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (29.1%)	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (31.9%)	<i>Bacteriastrum delicatulum</i> 珪藻類 (35.4%)	
	優占2位	<i>Bacteriastrum delicatulum</i> 珪藻類 (18.2%)	<i>Bacteriastrum delicatulum</i> 珪藻類 (17.5%)	<i>Chaetoceros distans</i> 珪藻類 (12.2%)	
	優占3位	<i>Peridiniales (Heterocapsa circumspecta?)</i> 渦鞭毛藻類 (9.1%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (12.4%)	<i>Leptocylindrus danicus</i> 珪藻類 (10.4%) <i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (10.4%)	

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成26年3月、北九州市環境局)

表 3.1-27 植物プランクトンの調査結果 (2/3)

【秋季】					調査時期：平成25年10月18日
調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	34	40	31	38	
個体数（細胞/L）	384,750	195,300	52,175	42,915	
沈殿量 (mL/L)	0.10	0.07	0.07	0.04	
細胞数	クリプト藻類	2,400 (0.6%)	0 (0.0%)	4,500 (8.6%)	720 (1.7%)
	渦鞭毛藻類	675 (0.2%)	1,080 (0.6%)	600 (1.1%)	30 (0.1%)
	黄金色藻類	50 (0.0%)	1,440 (0.7%)	200 (0.4%)	0 (0.0%)
	珪藻類	371,925 (96.7%)	180,540 (92.4%)	33,675 (64.5%)	26,325 (61.3%)
	その他	9,700 (2.5%)	12,240 (6.3%)	13,200 (25.3%)	15,840 (36.9%)
	合計	384,750 (100.0%)	195,300 (100.0%)	52,175 (100.0%)	42,915 (100.0%)
主な出現種	優占1位	<i>Nitzschia pungens</i>	<i>Nitzschia pungens</i>	Haptophyceae	Haptophyceae
		珪藻類 (38.7%)	珪藻類 (27.2%)	クリプト藻類 (13.8%)	ハプト藻類 (21.8%)
	優占2位	<i>Skeletonema costatum</i>	<i>Skeletonema costatum</i>	<i>Bellerochea horologicalis</i>	<i>Nitzschia pungens</i>
		珪藻類 (14.5%)	珪藻類 (12.4%)	珪藻類 (11.9%)	珪藻類 (12.0%)
	優占3位	<i>Thalassiosira</i> spp.	<i>Asterionella glacialis</i>	Prasinophyceae	<i>Gephyrocapsa oceanica</i>
		珪藻類 (8.0%)	珪藻類 (11.2%)	アラシノ藻類 (11.5%)	ハプト藻類 (11.7%)
【冬季】					調査時期：平成25年12月5日
調査地点	E-7	E-8	E-9		
種類数	39	37	42		
個体数（細胞/L）	27,720	51,270	55,380		
沈殿量 (mL/L)	0.03	0.05	0.04		
細胞数	クリプト藻類	900 (3.2%)	1,080 (2.1%)	4,320 (7.8%)	
	渦鞭毛藻類	165 (0.6%)	45 (0.1%)	390 (0.7%)	
	黄金色藻類	360 (1.3%)	240 (0.5%)	120 (0.2%)	
	珪藻類	13,695 (49.4%)	15,525 (30.3%)	27,150 (49.0%)	
	その他	12,600 (45.5%)	34,380 (67.1%)	23,400 (42.3%)	
	合計	27,720 (100.0%)	51,270 (100.0%)	55,380 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Haptophyceae ハプト藻類 (32.5%)	Haptophyceae ハプト藻類 (45.6%)	Haptophyceae ハプト藻類 (20.2%)	
	優占2位	<i>Gephyrocapsa oceanica</i> ハプト藻類 (9.7%)	<i>Gephyrocapsa oceanica</i> ハプト藻類 (17.2%)	<i>Gephyrocapsa oceanica</i> ハプト藻類 (15.0%)	
	優占3位	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (9.1%)	<i>Cylindrotheca closterium</i> 珪藻類 (5.1%)	<i>Nitzschia pungens</i> 珪藻類 (11.5%)	
【冬季】					調査時期：平成26年3月
調査地点	E-1	E-3	E-5	E-6	
種類数	33	24	35	36	
個体数（細胞/L）	87,900	102,840	74,460	13,890	
沈殿量 (mL/L)	0.10	0.07	0.07	0.04	
細胞数	クリプト藻類	33,120 (37.7%)	11,520 (11.2%)	3,600 (4.8%)	1,440 (10.4%)
	渦鞭毛藻類	270 (0.3%)	120 (0.1%)	195 (0.3%)	20 (0.1%)
	黄金色藻類	2,400 (2.7%)	0 (0.0%)	120 (0.2%)	120 (0.9%)
	珪藻類	39,870 (45.4%)	29,760 (28.9%)	68,385 (91.8%)	4,870 (35.1%)
	その他	12,240 (13.9%)	61,440 (59.7%)	2,160 (2.9%)	7,440 (53.6%)
	合計	87,900 (100.0%)	102,840 (100.0%)	74,460 (100.0%)	13,890 (100.0%)
主な出現種	優占1位	Cryptophyceae クリプト藻類 (37.7%)	Prasinophyceae アラシノ藻類 (57.9%)	<i>Skeletonema costatum</i> 珪藻類 (67.2%)	Prasinophyceae アラシノ藻類 (41.5%)
	優占2位	<i>Skeletonema costatum</i> 珪藻類 (13.4%)	<i>Skeletonema costatum</i> 珪藻類 (17.7%)	<i>Chaetoceros debile</i> 珪藻類 (13.9%)	Cryptophyceae クリプト藻類 (10.4%)
	優占3位	Prasinophyceae アラシノ藻類 (9.8%)	Cryptophyceae クリプト藻類 (11.2%)	Cryptophyceae クリプト藻類 (4.8%)	不明微小鞭毛藻 不明 (8.6%)
【冬季】					調査時期：平成26年3月
調査地点	E-7	E-8	E-9		
種類数	25	32	33		
個体数（細胞/L）	7,370	42,255	22,584		
沈殿量 (mL/L)	0.03	0.05	0.04		
細胞数	クリプト藻類	2,640 (35.8%)	720 (1.7%)	3,840 (17.0%)	
	渦鞭毛藻類	320 (4.3%)	210 (0.5%)	40 (0.2%)	
	黄金色藻類	180 (2.4%)	270 (0.6%)	6 (0.0%)	
	珪藻類	3,030 (41.1%)	5,040 (11.9%)	938 (4.2%)	
	その他	1,200 (16.3%)	36,015 (85.2%)	17,760 (78.6%)	
	合計	7,370 (100.0%)	42,255 (100.0%)	22,584 (100.0%)	
主な出現種	優占1位	Cryptophyceae クリプト藻類 (35.8%)	Prasinophyceae アラシノ藻類 (46.0%)	Prasinophyceae アラシノ藻類 (55.3%)	
	優占2位	<i>Chaetoceros sociale</i> 珪藻類 (13.8%)	Haptophyceae ハプト藻類 (22.2%)	Cryptophyceae クリプト藻類 (17.0%)	
	優占3位	不明微小鞭毛藻 不明 (9.8%)	<i>Gephyrocapsa oceanica</i> ハプト藻類 (11.9%)	Haptophyceae ハプト藻類 (12.8%)	

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成26年3月、北九州市環境局)

表 3.1-28 植物プランクトンの調査結果 (3/3)

水域名：響灘 測定点：H5 表層

測定月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
藍藻類	クロオコックス科												
クリプト藻類	クリプトモナス科		●			●●			●				
	プロロケントルム					●			●				
	ディノフィシス科												
	ギムノディニウム												
	カレニア												
	アレキサンドリウム		●										
	その他		●			●			●			●	
黄金色藻類	ディクチオカ目											●	
	ペディネラ目												
	その他												
ラフィド藻類	シャトネラ												
	シャトネラ (有毒種)												
	ヘテロシグマ					●							
	フィプロカブサ												
珪藻類	キクロテラ								●●				
	スケレトネマ		●			●●			●				
	タラシオシーラ					●			●		●		
	レプトキリンドルス		●●						●		●		
	リゾソレニア		●			●			●		●●●		
	ケラタウリナ					●			●				
	ユーカムビア					●			●		●		
	キートケロス		●			●●			●		●●●		
	アステリオネラ												
	タラシオネマ					●			●		●		
	ニッチャ		●										
	ブセウドニッチャ		●●			●			●●		●		
	その他		●			●			●		●●		
ミドリムシ 藻類	ユーグレナ+ユートレブ ティエラ		●										
	その他								●				
プラシノ藻類	プラミモナス												
	その他					●							
緑藻類	オルトマンシェラ												
	その他												
その他の微小プランクトン			●●			●●			●			●	

プランクトン細胞数 (細胞/mL) 0 = [] 0 < [●] < 10 10 ≤ [●●] < 100
 100 ≤ [●●●] < 1,000 1,000 ≤ [●●●●] < 10,000 10,000 ≤ [●●●●●]

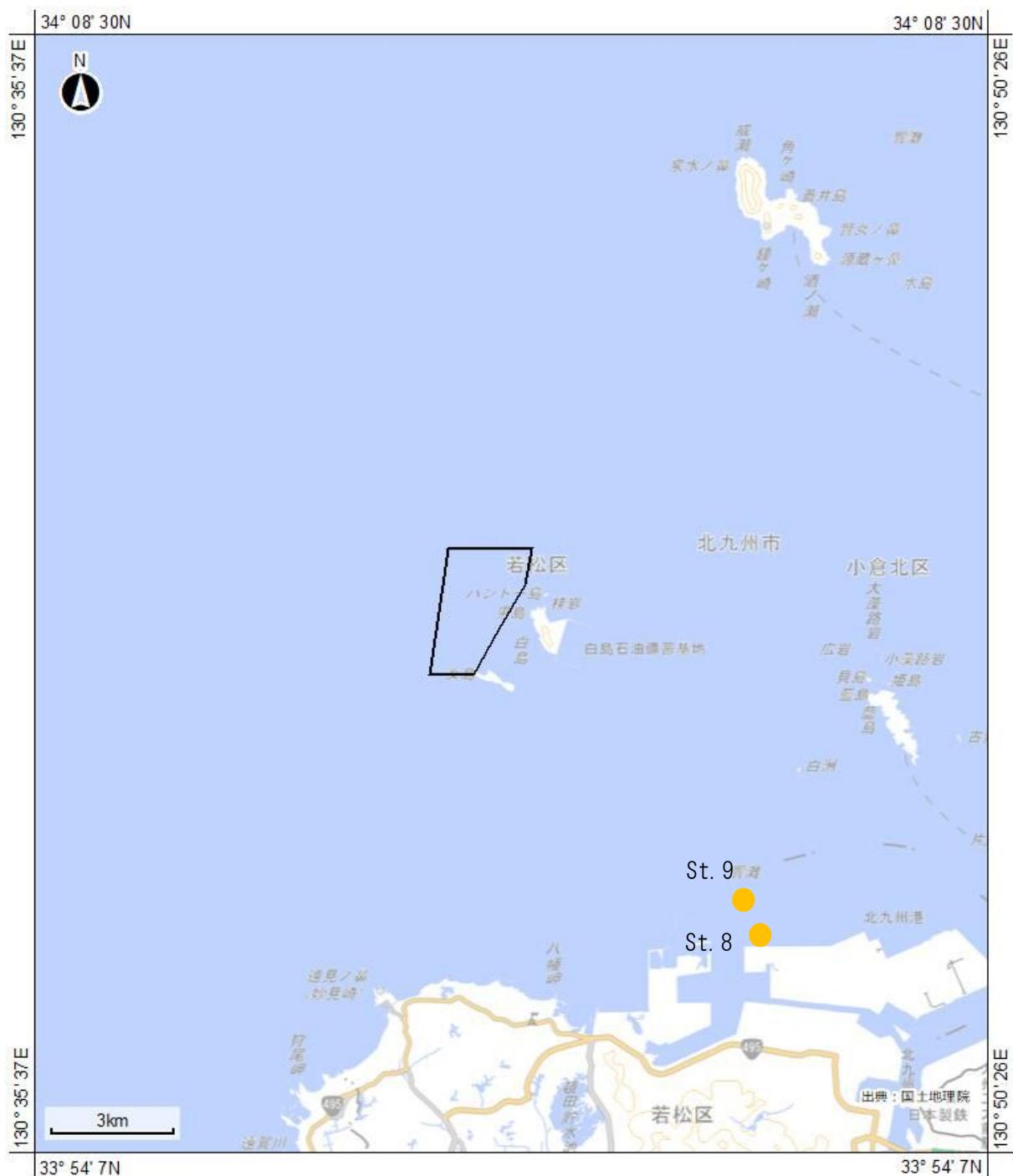
注) その他の微小プランクトンには動物プランクトンも含まれている。

出典:「令和6年度版 北九州市の環境」(北九州市環境局)

② 潮間帯生物の状況

事業実施区域周辺については、平成 25 年 3 月、7 月、10 月及び 12 月に北九州市により付着植物の調査が行われている。調査地点は図 3.1-16 に、調査結果を表 3.1-29～表 3.1-30 に示す。

種類数は全体を通して 1 種～31 種、湿重量は $0.01\text{g}/\text{m}^2$ 未満～ $3,193.02\text{g}/\text{m}^2$ の範囲にあり、種類数は春季に増加し、湿重量は夏季に増加する傾向がみられる。主な出現種は紅藻であった。



凡例

● 付着植物調査地点

□ 事業実施区域

出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市，平成27年8月）

図 3.1-16 付着植物の調査地点

表 3.1-29 付着植物の調査結果 (1/2)

【春季】		調査時期：平成25年3月7日						
調査地点	種類数	St. 8			St. 9			湿重量 (g/m ²)
		高潮帶	中潮帶	低潮帶	高潮帶	中潮帶	低潮帶	
湿重量	1	5	31	5	10	30		
	+ 56.44	56.44	1,260.77	0.56	312.87	1,241.65		
	藍藻類 + (100.0%)	+ (0.0%)	+ (0.0%)	+ (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
	緑藻類 0 (0.0%)	+ (0.0%)	1 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)		
	褐藻類 0 (0.0%)	0 (0.0%)	480 (38.1%)	+ (0.0%)	1 (0.3%)	341 (27.4%)		
合 計	紅藻類 0 (0.0%)	56 (100.0%)	780 (61.8%)	1 (100.0%)	312 (99.7%)	892 (71.9%)		
	+ (100.0%)	56 (100.0%)	1,261 (100.0%)	1 (100.0%)	313 (100.0%)	1,242 (100.0%)		
主な出現種	優占1位 CYANOPHYCEAE 藍藻 (100.0%)	<i>Corallina pilulifera</i>	<i>Corallina pilulifera</i>	<i>Porphyra</i> sp.	<i>Corallina pilulifera</i>	<i>Rhodymenia intricata</i>		
		紅藻 (100.0%)	紅藻 (30.6%)	紅藻 (100.0%)	紅藻 (98.4%)	紅藻 (25.5%)		
	優占2位			<i>Plocamium telfairiae</i>	<i>Plocamium telfairiae</i>	<i>Dictyopteris latiuscula</i>		
				紅藻 (23.9%)	紅藻 (0.8%)	褐藻 (24.8%)		
	優占3位	—	—	<i>Dictyopteris latiuscula</i>	<i>Porphyra</i> sp.	<i>Plocamium telfairiae</i>		
				褐藻 (14.3%)	紅藻 (0.3%)	紅藻 (15.6%)		

注) +表示は0.01g未満を示す。

【夏季】		調査時期：平成25年7月23日						
調査地点	種類数	St. 8			St. 9			湿重量 (g/m ²)
		高潮帶	中潮帶	低潮帶	高潮帶	中潮帶	低潮帶	
湿重量	1	2	17	1	4	21		
	+ 3,193.02	+ 3,193.02	+ 3,193.02	+ 1.11	1.11	1,807.89		
	藍藻綱 + (100.0%)	+ (100.0%)	0.00 (0.0%)	+ (100.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)		
	緑藻綱 0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	4.33 (0.2%)	
	褐藻綱 0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	673.01 (21.1%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	649.67 (35.9%)		
主な出現種	紅藻綱 0.00 (0.0%)	+ (100.0%)	2,520.01 (78.9%)	0.00 (0.0%)	1.11 (100.0%)	1,153.89 (63.8%)		
	合 計 + (100.0%)	+ (100.0%)	3,193.02 (100.0%)	+ (100.0%)	1.11 (100.0%)	1,807.89 (100.0%)		
	優占1位 ユリモ科 藍藻 (100.0%)	ユリモ科 藍藻 (50.0%)	ツムガテ [*] 紅藻 (31.6%)	ユリモ科 藍藻 (100.0%)	ツノマタ属 紅藻 (100.0%)	フダラク 紅藻 (39.3%)		
優占2位			サンゴモ科(無節サンゴモ類) 紅藻 (50.0%)	ハイヌコ属 紅藻 (20.0%)			ハラヤハス [*] 褐藻 (33.2%)	
		—	—	ナガノリ 紅藻 (19.3%)	—	—	マクサ [*] 紅藻 (7.9%)	

注) +表示は0.01g未満を示す。

【秋季】		調査時期：平成25年10月19日						
調査地点	種類数	St. 8			St. 9			湿重量 (g/m ²)
		高潮帶	中潮帶	低潮帶	高潮帶	中潮帶	低潮帶	
湿重量	1	4	15	1	5	20		
	+ 626.77	+ 626.77	+ 626.77	+ 582.33	+ 582.33	917.10		
	藍藻綱 + (100.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)	+ (100.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)		
	緑藻綱 0.00 (0.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	1.11 (0.1%)		
	褐藻綱 0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	11.00 (1.8%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	33.44 (3.6%)		
主な出現種	紅藻綱 0.00 (0.0%)	0.11 (100.0%)	615.77 (98.2%)	0.00 (0.0%)	582.33 (100.0%)	882.55 (96.2%)		
	合 計 + (100.0%)	0.11 (100.0%)	626.77 (100.0%)	+ (100.0%)	582.33 (100.0%)	917.10 (100.0%)		
	優占1位 ユリモ科 藍藻 (100.0%)	コザキモ [*] 紅藻 (68.0%)	ヒリヒバ [*] 紅藻 (68.0%)	ユリモ科 藍藻 (100.0%)	ヒリヒバ [*] 紅藻 (99.9%)	カカツリガニ/テ [*] 紅藻 (66.8%)		
優占2位			ユリモ科 藍藻 (0.0%)	ツムガテ [*] 紅藻 (12.4%)				
		—	アオサ属 緑藻 (0.0%)	モサズキ属 紅藻 (9.9%)	—	ヒガリノリ科 紅藻 (0.1%)	ヒリヒバ [*] 紅藻 (20.8%)	
優占3位						ユリモ科 藍藻 (0.0%)	モサズキ属 紅藻 (8.4%)	
		—				トゲイモ [*] 紅藻 (0.0%)		

注) +表示は0.01g未満を示す。

出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」(北九州市, 平成27年8月)

表 3.1-30 付着植物の調査結果 (2/2)

【冬季】		調査時期：平成25年12月2日					
調査地点		St. 8			St. 9		
		高潮帯	中潮帯	低潮帯	高潮帯	中潮帯	低潮帯
種類数		2	5	19	3	8	22
湿重量 (g/m ²)		+	529.11	521.44	0.55	795.55	595.88
湿重量	藍藻綱	+ (50.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)	+ (0.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)
	緑藻綱	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	+ (0.0%)	0.00 (0.0%)	0.11 (0.0%)	+ (0.0%)
	褐藻綱	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	52.45 (10.1%)	0.00 (0.0%)	0.00 (0.0%)	1.66 (0.3%)
	紅藻綱	+ (50.0%)	529.11 (100.0%)	468.99 (89.9%)	0.55 (100.0%)	795.44 (100.0%)	594.22 (99.7%)
	合 計	+ (100.0%)	529.11 (100.0%)	521.44 (100.0%)	0.55 (100.0%)	795.55 (100.0%)	595.88 (100.0%)
主な 出現種	優占1位	ユレモ科 藍藻	ビリヒバ (50.0%)	紅藻 (100.0%)	ビリヒバ 紅藻 (35.4%)	ビリヒバ 紅藻 (60.0%)	ビリヒバ ウスカリカニノテ 紅藻 (100.0%)
	優占2位	ビリヒバ 紅藻	ユレモ科 (50.0%)	ユカリ 藍藻 (0.0%)	アマリ属 紅藻 (24.4%)	シオクサ属 紅藻 (40.0%)	ユカリ 紅藻 (0.0%)
	優占3位		サンゴモ科(無節サンゴモ類) 紅藻 ユカリ 紅藻 キヌイタケサ属 紅藻	モサズキ属 紅藻 (0.0%)	ユレモ科 藍藻 (17.6%)	ユレモ科 アオリ属 紅藻 アマリ属 紅藻 サンゴモ科(無節サンゴモ類) 紅藻 キヌイタケサ属 紅藻 イネス属 紅藻	ビリヒバ 紅藻 (17.0%) (0.0%) (0.0%) (0.0%) (0.0%) (0.0%) (0.0%) (0.0%) (0.0%)

注) +表示は0.01g未満を示す。

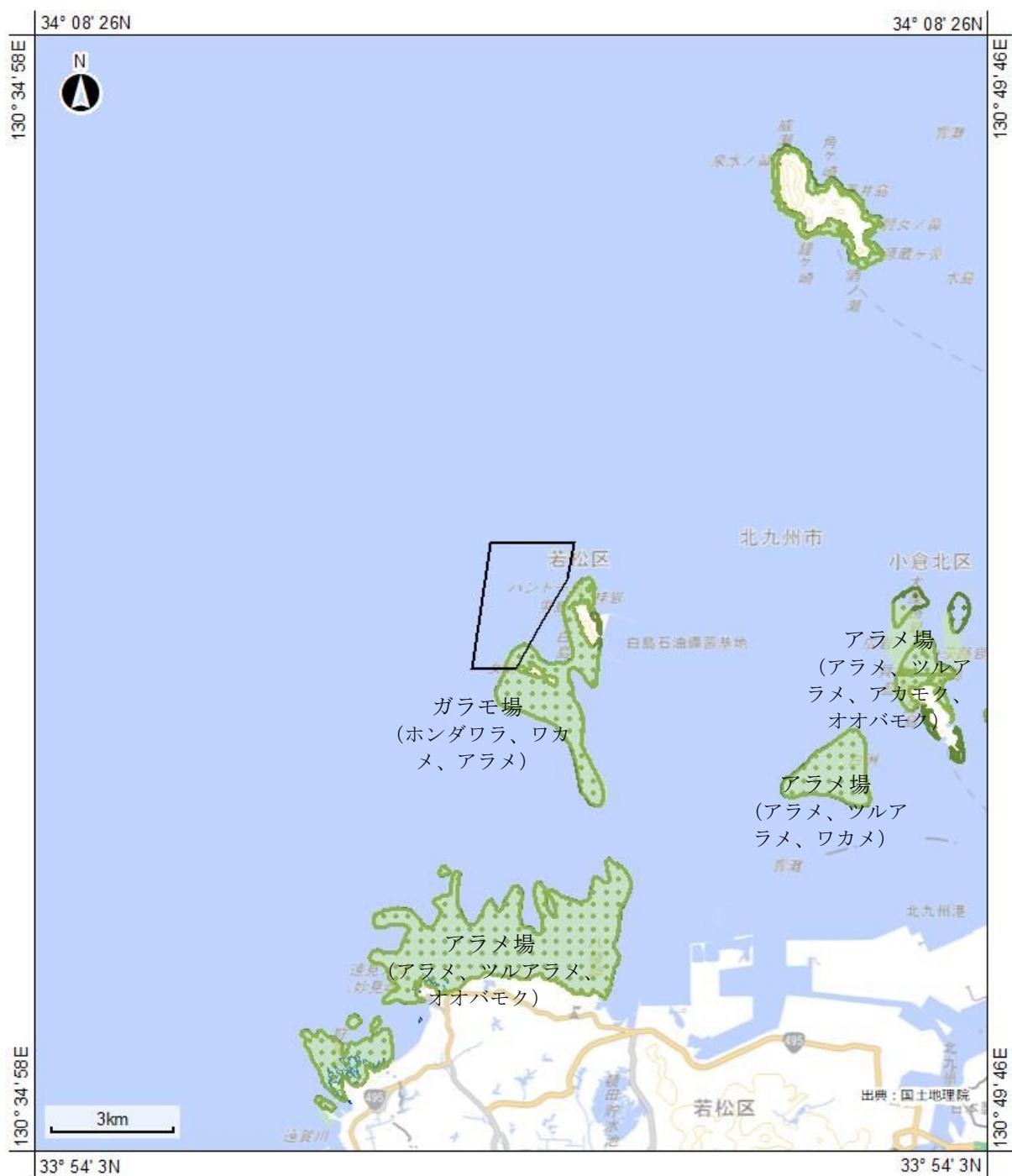
出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市，平成27年8月）

③ 藻場の状況

事業実施区域周辺については、「第4回自然環境保全環境基礎調査（平成元年～平成4年）」及び「第5回自然環境保全環境基礎調査（平成9年～平成13年）」によると、響灘海域の沿岸域や島嶼部の岩礁部にはホンダワラ等によって構成されるガラモ場に加え、アラメ及びツルアラメ等で構成されるアラメ場が見られる（図3.1-17参照）。

また、平成25年5月及び12月に北九州市環境局、同年3月及び6月に北九州市より調査が行われている。調査地点は図3.1-18に、調査結果を表3.1-31～表3.1-32に示す。

種類数は全体を通して6～16種類、湿重量は51.3g/0.25m²～4,326.4g/0.25m²の範囲にあり、白島（E-17）の春季に多く見られる。主な出現種は褐藻類であった。

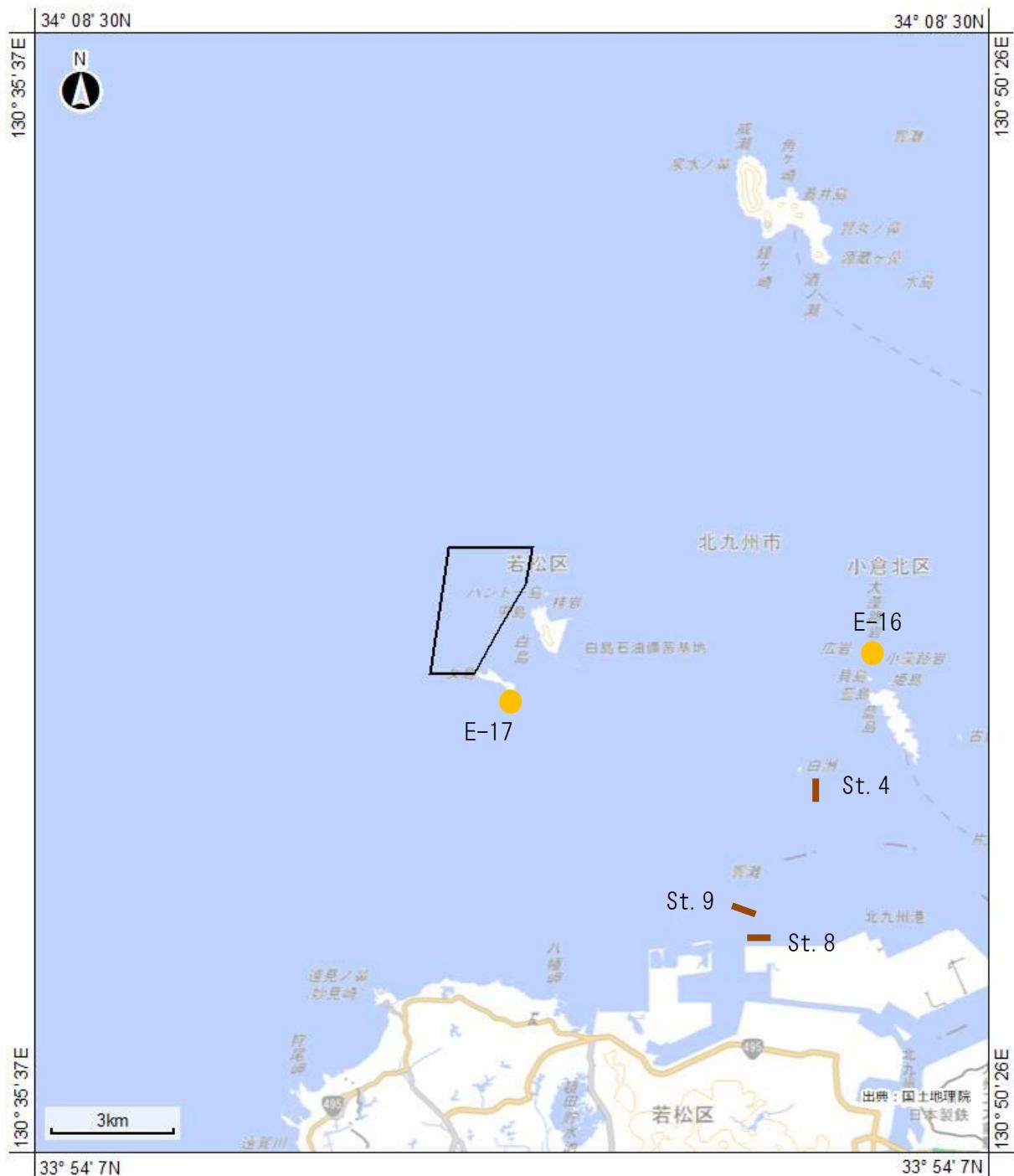


凡例

- | | |
|----------------------|----------|
| ■ 藻場 (第4回自然環境保全基礎調査) | □ 事業実施区域 |
| ■ 藻場 (第5回自然環境保全基礎調査) | |
| ■ 藻場 (2018-2020年度調査) | |

出典:「第4回自然環境保全基礎調査（平成元年～4年）」、「第5回自然環境保全基礎調査（平成9年～13年）及び2018-2020年度調査」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和7年6月閲覧）

図 3.1-17 藻場の分布状況



凡例

- 藻場調査地点（北九州市環境局）
- 事業実施区域
- 藻場調査地点（北九州市）

出典: 「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」(平成 26 年 3 月、北九州市環境局)
「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」(北九州市、平成 27 年 8 月)

図 3.1-18 藻場の調査地点

表 3.1-31 藻場調査の結果 (1/2)

【春季】

調査時期：平成25年5月19日

調査地点	E-16	E-17
種類数	15	14
湿重量 (g/0.25m ²)	1,132.5	4,326.4
湿重量	緑藻類	0 (0.0%)
	褐藻類	1,101.5 (97.3%)
	紅藻類	31.0 (2.7%)
	その他	0 (0.0%)
	合 計	1,132.5 (100.0%)
主な 出現種	優占1位	ツルアラメ 褐藻 (82.4%)
	優占2位	ウスバノコギリモク 褐藻 (13.4%)
	優占3位	スカケベニ 紅藻 (2.4%)
		エンドウモク 褐藻 (33.7%)
		ヤツマタモク 褐藻 (19.8%)
		ウスバノコギリモク 褐藻 (16.2%)

【冬季】

調査時期：平成25年12月16日

調査地点	E-16	E-17
種類数	16	14
湿重量 (g/0.25m ²)	51.3	687.0
湿重量	緑藻類	0 (0.0%)
	褐藻類	49.8 (97.1%)
	紅藻類	1.5 (2.9%)
	その他	0 (0.0%)
	合 計	51.3 (100.0%)
主な 出現種	優占1位	ツルアラメ 褐藻類 (83.8%)
	優占2位	ウスバノコギリモク 褐藻類 (13.3%)
	優占3位	エヅイイノカワ 紅藻類 (2.1%)
		ノコギリモク 褐藻類 (80.2%)
		エンドウモク 褐藻類 (14.9%)
		ツルアラメ 褐藻類 (2.4%)

出典：「響灘エリアにおける発電所事業に係る環境調査業務委託報告書」（平成26年3月、北九州市環境局）

表 3.1-32 藻場調査の結果 (2/2)

【春季】

調査時期：平成25年3月6～7日

調査地点	St. 4	St. 8	St. 9
種類数	15	11	9
湿重量 (g/0.25m ²)	682.0	957.0	723.0
湿重量	緑藻類	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	褐藻類	630.0 (92.4%)	876.0 (91.5%)
	紅藻類	52.0 (7.6%)	81.0 (8.5%)
	その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計	682.0 (100.0%)	957.0 (100.0%)
主な出現種	優占1位	ツルアラメ 褐藻 (82.3%)	ツルアラメ 褐藻 (46.8%)
	優占2位	エンドウモク 褐藻 (10.0%)	ノコギリモク 褐藻 (44.7%)
	優占3位	カリ 紅藻 (2.2%)	カリ 紅藻 (4.2%)

【夏季】

調査時期：平成25年6月7日

調査地点	St. 4	St. 8	St. 9
種類数	13	8	6
湿重量 (g/0.25m ²)	1,036.0	1,023.0	792.0
湿重量	緑藻類	20 (1.9%)	2 (0.2%)
	褐藻類	957.0 (92.4%)	983.0 (96.1%)
	紅藻類	59.0 (5.7%)	38.0 (3.7%)
	その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	合計	1036.0 (100.0%)	1023.0 (100.0%)
主な出現種	優占1位	ツルアラメ 褐藻 (60.2%)	ツルアラメ 褐藻 (50.1%)
	優占2位	ウスバノコギリモク 褐藻 (27.3%)	ノコギリモク 褐藻 (45.9%)
	優占3位	ホンダワラ 褐藻 (3.0%)	トカラリ属の一種 紅藻 (1.7%)

出典：「響灘東地区処分場整備事業に係る環境影響評価書」（北九州市、平成27年8月）

2. 動物の生育の状況

(1) 陸域における動物

陸域における動物としては、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類が該当するが、事業実施区域は北九州市白島沖合であることから、動物の生息状況としては事業実施区域までの広い行動範囲が想定される鳥類を対象とした。

① 鳥類の状況

文献調査として、表 3.1-33 に示す文献やその他の資料から、響灘に面する事業実施区域及びその周辺において生息記録のある種を抽出した。この結果、確認された鳥類は表 3.1-34～表 3.1-40 のとおりであり、21 目 68 科 336 種であった。

表 3.1-33 鳥類に係る文献その他の資料

資料名		対象データ
a	「わたしたちの自然史」(北九州市立自然史・歴史博物館自然史友の会、2007 年) の「北九州市の野鳥一覧」(2007 年改訂版)	北九州市または若松区
b	「北九州市生物多様性戦略」(北九州市、平成 22 年)	北九州市または若松区
c	「響灘の自然環境・社会的状況 調査報告書」(北九州市、令和 2 年)	響灘海域船舶トランセクト調査
d	「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック 2011-」(福岡県、平成 23 年)	北九州市または若松区
e	環境省モデル事業：「平成 26 年度風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業」(環境省、平成 27 年)	響灘海域船舶トランセクト調査及び男島・女島ラインセンサス調査
f	NEDO 着床式事業：「着床式洋上風力発電の環境影響評価手法に関する基礎資料（最終版）」(NEDO、平成 30 年 3 月)	響灘海域船舶トランセクト調査
g	NEDO 浮体式事業：「NEDO 次世代浮体式洋上風力発電システム実証研究-環境影響評価書-」(エコ・パワー株式会社、平成 28 年)	響灘海域船舶トランセクト調査

表 3.1-34 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (1/7)

NO.	目名	科目	種名	確認記録						
				a 野北 鳥九 一州 覧の	b 生物 多様 性	c 北 九 州 性	d 自然 環境 の	e R 福 D 岡 B 県	f モ デ ル 環 境 事 業	g 着 床 N E D O 事業
				N E D O 事業						
1	カモ	カモ	コクガン	○						
2			ハイイロガン	○						
3			サカツラガン	○						
4			ヒシクイ	○						
5			マガソ	○						
6			コハクチョウ	○						
7			オオハクチョウ	○						
8			ツクシガモ	○			○			
9			アカツクシガモ	○						
10			オシドリ	○		○	○			
11			トモエガモ	○						
12			シマアジ	○						
13			ハシビロガモ	○						
14			オカヨシガモ	○						
15			ヨシガモ	○						
16			ヒドリガモ	○						
17			アメリカヒドリ	○						
18			カルガモ	○		○		○	○	
19			マガモ	○						
20			オナガガモ	○						
21			コガモ	○						
22			オオホシハジロ	○						
23			ホシハジロ	○						
24			アカハジロ	○	○					
25			キンクロハジロ	○						
26			スズガモ	○						
27			シノリガモ	○						
28			ビロードキンクロ	○						
29			クロガモ	○						
30			ヒメハジロ	○						
31			ホオジロガモ	○						
32			ミコアイサ	○			○			
33			カワアイサ	○						
34			ウミアイサ	○				○	○	
35	キジ	キジ	ヤマドリ	○			○			
36			キジ	○						
37			ウズラ	○	○					
38	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	○						
39	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ	○						
40			アマツバメ	○				○	○	
41			ヒメアマツバメ	○						
42	カッコウ	カッコウ	ジュウイチ	○						
43			ホトトギス	○						
44			セグロカッコウ	○						
45			ツツドリ	○						
46			カッコウ	○						
47	ハト	ハト	カラスバト	○	○			○		
48			キジバト	○		○		○		
49			アオバト	○						
50	ツル	クイナ	クイナ	○						
51			バン	○						
52			オオバン	○						
53			ヒクイナ	○						
54			ヒメクイナ	○						
55			ツルクイナ	○						

表 3.1-35 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (2/7)

NO.	目名	科目	種名	確認記録						
				a 野北 鳥九 一州 覧の	b 生物 多九 様州 性	c 自然 環境 の	d R福 D岡 B県	e モ デ 環 境 事 業	f 着 床 式 事 業	g N E D 事業
56	ツル	クイナ	シロハラクイナ	○						
57	ツル		マナヅル	○						
58			アネハヅル	○						
59			ナベヅル	○						
60			カイツブリ	カイツブリ	○	○				
61	チドリ		アカエリカイツブリ	○						
62			カンムリカイツブリ	○				○		○
63			ミミカイツブリ	○						
64			ハジロカイツブリ	○				○		
65			ミヤコドリ	ミヤコドリ	○		○			
66			セイタカシギ	セイタカシギ	○					
67			ソリハシセイタカシギ	○						
68			タゲリ	○			○			
69			ケリ	○			○			
70			ムナグロ	○						
71			ダイゼン	○				○		
72			ハジロコチドリ	○						
73			イカルチドリ	○						
74			コチドリ	○						
75			シロチドリ	○	○		○	○		
76			オオメダイチドリ	○						
77			メダイチドリ	○				○		
78	シギ		タマシギ	タマシギ	○					
79			チュウシャクシギ	○						
80			コシャクシギ	○						
81			ホウロクシギ	○			○	○		
82			ダイシャクシギ	○			○			
83			オオソリハシシギ	○			○			
84			オグロシギ	○						
85			キョウジョシギ	○				○		
86			オバシギ	○						
87			コオバシギ	○						
88			エリマキシギ	○						
89			キリアイ	○						
90			ウズラシギ	○	○		○			
91			サルハマシギ	○						
92			オジロトウネン	○						
93			ヒバリシギ	○						
94			ヘラシギ	○						
95			トウネン	○				○		
96			ミユビシギ	○						
97			ハマシギ	○						
98			コモンシギ	○						
99			アメリカウズラシギ	○						
100			シベリアオオハシシギ	○						
101			オオハシシギ	○						
102			ヤマシギ	○						
103			アオシギ	○						
104			オオジシギ	○	○					
105			チュウジシギ	○						
106			タシギ	○						
107			ソリハシシギ	○						
108			アカエリヒレアシシギ	○		○		○		○
109			ハイイロヒレアシシギ	○						
110			イソシギ	○				○		

表 3.1-36 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (3/7)

NO.	目名	科目	種名	確認記録						
				a 野北 鳥九 一州 覧の	b 生物 多九 様州 性	c 自然 環境 の	d R福 D岡 B県	e モ デ ル 環 境 事 業	f 着 床 式 N E D 事 業	g 浮 体 式 N E D 事 業
111	チドリ	シギ	クサシギ	○						
112			キアシシギ	○				○		
113			アカアシシギ	○	○					
114			コアオアシシギ	○						
115			タカブシギ	○			○			
116			ツルシギ	○						
117			アオアシシギ	○						
118			カラフトアオアシシギ	○	○					
119			ツバメチドリ	○			○			
120	カモメ	カモメ	クロアジサシ	○				○		
121			ミツユビカモメ	○					○	
122			ユリカモメ	○						
123			ズグロカモメ	○	○		○			
124			ゴビズキンカモメ	○						
125			オオズグロカモメ	○						
126			ウミネコ	○		○		○	○	○
127			カモメ	○					○	
128			シロカモメ	○						
129			セグロカモメ	○		○		○	○	○
130			オオセグロカモメ	○		○		○	○	○
131			ハシブトアジサシ	○						
132			オニアジサシ	○						
133			オオアジサシ	○						
134			コアジサシ	○	○		○	○		
135			ベニアジサシ	○			○			
136			エリグロアジサシ	○						
137			アジサシ	○	○			○		
138			クロハラアジサシ	○						
139			ハジロクロハラアジサシ	○						
140	ウミスズメ	ウミスズメ	ウミスズメ	○					○	
141			カンムリウミスズメ	○	○	○		○	○	○
142	アビ	アビ	アビ	○		○				
143			オオハム	○		○		○	○	
144			シロエリオオハム	○		○		○		
145			ミズナギドリ	ウミツバメ	○					
146	ミズナギドリ	ミズナギドリ	オオミズナギドリ	○		○		○	○	○
147			ハイイロミズナギドリ	○						
148			ハシボソミズナギドリ	○						
149	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	○						
150	カツオドリ	グンカンドリ	コグンカンドリ	○						
151			アカアシカツオドリ	○						
152		カツオドリ	カツオドリ	○		○				
153			ウ	ヒメウ	○	○		○	○	○
154			ウミウ	○		○		○	○	○
155			カワウ	○				○		
156	ペリカン	トキ	ヘラサギ	○			○			
157			クロツラヘラサギ	○	○		○			
158		サギ	サンカノゴイ	○			○			
159			ヨシゴイ	○						
160			オオヨシゴイ	○						
161			ミヅゴイ	○						
162			ゴイサギ	○						
163			ササゴイ	○						
164			アカガシラサギ	○						
165			アマサギ	○			○	○		

表 3.1-37 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (4/7)

NO.	目名	科目	種名	確認記録						
				a	b	c	d	e	f	g
				野鳥 北九 一州 観の 覽	生物 北多 様性	自然 環境 の 響灘	R D 福岡 県	モ デ ル 環 境 事 業	着 床 式 N E D O 事 業	浮 体 式 N E D O 事 業
166	ペリカン	サギ	アオサギ	○		○		○		○
167			ムラサキサギ	○						
168			ダイサギ	○		○		○		
169			チュウサギ	○			○			
170			コサギ	○	○					
171			クロサギ	○			○	○	○	
172			カラシラサギ	○	○		○			
173	タカ	ミサゴ	ミサゴ	○	○			○	○	○
174			ハチクマ	○				○		
175			クマタカ	○	○		○			
176			カタシロワシ	○						
177			イヌワシ	○						
178			アカハラダカ	○						
179			ツミ	○						
180			ハイタカ	○		○		○	○	
181			オオタカ	○	○					
182			チュウヒ	○	○		○			
183			ハイイロチュウヒ	○			○			
184			マダラチュウヒ	○						
185			トビ	○		○		○	○	○
186			オジロワシ	○						
187			サシバ	○	○					
188			ケアシノスリ	○						
189			オオノスリ	○						
190			ノスリ	○				○	○	
191	フクロウ	フクロウ	アオバズク	○	○					
192			コノハズク	○	○					
193			リュウキュウコノハズク	○						
194			オオコノハズク	○						
195			トラフズク	○						
196			コミニズク	○			○			
197			フクロウ	○						
198	サイチョウ	ヤツガシラ	ヤツガシラ	○						
199			ブッポウソウ	○						
200			カワセミ	アカショウビン	○	○		○		
201				ヤマショウビン	○					
202				カワセミ	○	○				
203				ヤマセミ	○					
204	キツツキ	キツツキ	アリスイ	○						
205			コゲラ	○				○		
206			オオアカゲラ	○						
207			アオゲラ	○						
208	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	○						
209			アカシショウゲンボウ	○						
210			コチョウゲンボウ	○			○			
211			チゴハヤブサ	○				○		
212			ハヤブサ	○	○	○	○	○	○	○
213	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ	○						
214			サンショウクイ							
			亜種サンショウクイ	○						
			亜種リュウキュウサンショウクイ							
215			コウライウグイス	コウライウグイス	○					
216		モズ	カササギヒタキ	サンコウチュウ	○			○		
217			オオモズ	○						
218			チゴモズ	○						

表 3.1-38 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (5/7)

No.	目名	科目	種名	確認記録							
				a	b	c	d	e	f	g	
				野鳥 北九 一州 観の 性	生物 多様 性	北九 州の 環境	RDB 県	モ デル 事 業	着床 式事 業	NED 事業	
219	スズメ	モズ	アカモズ	○							
			亜種アカモズ								
			モズ	○							
			タカサゴモズ	○							
222	カラス		カケス	○							
			オナガ								
			カササギ	○	○						
			コクマルガラス	○							
			ミヤマガラス	○							
			ハシボソガラス	○				○	○		
			ハシブトガラス	○				○			
			レンジャク	○							
228			キレンジャク	○							
229			ヒレンジャク	○				○			
230		シジュウカラ	ヒガラ	○							
231			ヤマガラ	○				○			
232			コガラ	○							
233			シジュウカラ	○	○			○			
234		ツリスガラ	ツリスガラ	○							
235	ヒバリ		ヒバリ	○							
			亜種 オオヒバリ								
			亜種 ヒバリ								
			ヒメコウテンシ	○							
			コヒバリ	○							
236			ヒヨドリ	○					○		
237			ツバメ	○							
238			ショウドウツバメ	○							
239			ツバメ	○		○		○	○	○	
240			イワツバメ	○							
241			コシアカツバメ	○				○			
242	ウグイス		ウグイス	○	○			○			
			ヤブサメ	○				○			
			エナガ	○							
			キマユムシクイ	○				○			
246		ムシクイ	ムジセッカ	○							
247			センダイムシクイ	○			○	○			
248			エゾムシクイ	○							
249			メボソムシクイ	○				○			
250			亜種コメボソムシクイ								
			亜種メボソムシクイ								
			ヨシキリ	○	○		○				
251			オオヨシキリ	○							
252			コヨシキリ	○							
253		センニュウ	エゾセンニュウ	○							
254			シマセンニュウ	○							
255			ウチヤマセンニュウ	○	○						
256			マキノセンニュウ	○							
257		セッカ	セッカ	○							
258		メジロ	メジロ	○				○			
259		キクイタダキ	キクイタダキ	○							
260		ミソサザイ	ミソサザイ	○		○		○			
261		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○							
262		キバシリ	キバシリ	○							
263	ムクドリ		ギンムクドリ	○							
			ムクドリ	○							
			コムクドリ	○							
			ホシムクドリ	○							
267		ツグミ	トラツグミ	○							

表 3.1-39 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (6/7)

NO.	目名	科目	種名	確認記録						
				a	b	c	d	e	f	g
				野鳥 北九 一州 観の 性	生物 多様 性	北九 州の 環境	RDB 県	モ デル 事業	着床 事業	NEDO 事業
268	スズメ	ツグミ	マミジロ	○						
269			クロツグミ	○						
270			マミチャジナイ	○						
271			シロハラ	○				○		
272			アカハラ	○						
273			ツグミ	○						
			亜種ツグミ							
			亜種ハチジョウツグミ							
274			ヒタキ	エゾビタキ	○			○		
275			サメビタキ	○						
276	スズメ	ヒタキ	コサメビタキ	○						
277			オオルリ	○						
278			オガワコマドリ	○						
279			ノゴマ	○						
280			コルリ	○						
281			コマドリ	○			○			
282			シマゴマ	○						
283			マミジロキビタキ	○						
284			キビタキ	○				○		
285			ムギマキ	○						
286			オジロビタキ	○						
287			ルリビタキ	○						
288			ジョウビタキ	○	○				○	
289			イソヒヨドリ	○					○	
290			ノビタキ	○						
291			ハシグロヒタキ	○						
292			カワガラス	カワガラス	○					
293	スズメ	イワヒバリ	ニュウナイスズメ	○						
294			スズメ	○				○		
295			イワヒバリ	○						
296			カヤクグリ	○						
297	セキレイ	セキレイ	イワミセキレイ	○						
298			ツメナガセキレイ	○						
			亜種マミジロツメナガセキレイ							
			亜種ツメナガセキレイ							
299			キセキレイ	○						
300			ハクセキレイ	○				○		
			亜種タイワンハクセキレイ							
			亜種ハクセキレイ							
			亜種ホオジロハクセキレイ							
301			セグロセキレイ	○						
302			マミジロタヒバリ	○						
303			ピンズイ	○						
304			セジロタヒバリ	○						
305			ムネアカタヒバリ	○						
306			タヒバリ	○						
307	アトリ	アトリ	アトリ	○						
308			シメ	○						
309			コイカル	○						
310			イカル	○						
311			ウソ	○						
			亜種アカウソ							
			亜種ウソ							
312			ハギマシコ	○						
313			ベニマシコ	○						

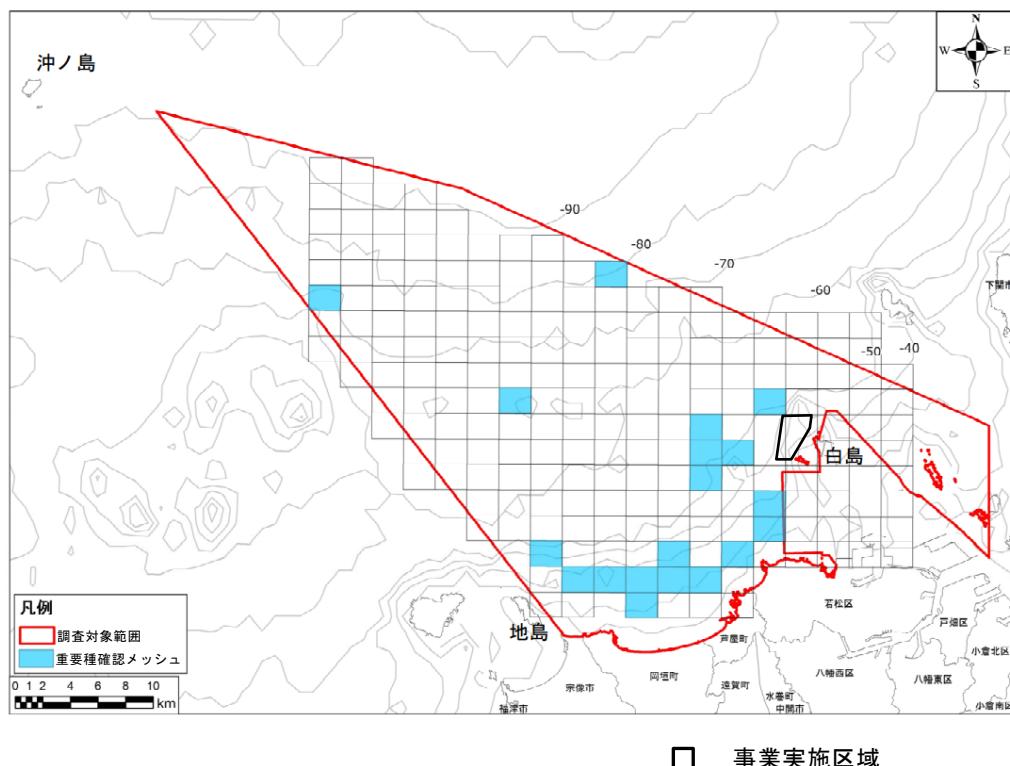
表 3.1-40 文献その他の資料による鳥類の調査結果 (7/7)

NO.	目名	科目	種名	確認記録						
				a 野北 鳥九 一州 覧の	b 生物 多九 様州 性	c 自然 環境	d R 福 D 岡 B 県	e モ デ ル 境 事 業	f 着 床 式 D 事 業	g N E D 事 業
314	スズメ	アトリ	オオマシコ	○						
			カワラヒワ	○						
315			亜種オオカワラヒワ							
			亜種カワラヒワ							
316		ツメナガホオジロ	ベニヒワ	○						
317			イスカ	○						
318			マヒワ	○						
319		ツメナガホオジロ	ツメナガホオジロ	○						
320			ユキホオジロ	○						
321		ホオジロ	シラガホオジロ	○						
322			ホオジロ	○						
323			シロハラホオジロ	○						
324			ホオアカ	○						
325			コホオアカ	○						
326			キマユホオジロ	○						
327			カシラダカ	○						
328			ミヤマホオジロ	○				○		
329			シマアオジ	○						
330			シマノジコ	○						
331			ノジコ	○						
332			アオジ	○				○		
333			クロジ	○						
334			シベリアジュリン	○						
335			コジュリン	○						
336			オオジュリン	○						
	21目	68科	336種	336種	32種	22種	35種	64種	22種	15種

注) 種名及び配列は、「日本鳥類目録改訂第8版」(日本鳥学会、令和6年9月)に準拠した。絶滅種は種数から除いた。

福岡県レッドデータブックによれば、事業実施区域の前面にある白島は、カラスバトやオオミズナギドリの繁殖地、春秋の渡りの時期における陸鳥の中継地になっている。

北九州市の「響灘の自然環境・社会的状況調査報告書」(令和2年3月)には、北九州市沖の鳥類の重要な種の分布情報が掲載されている(図3.1-19参照)。重要種は地島から白島にかけての陸域や島嶼に近い沿岸部に分布しており、沖合においては一部を除き、ほとんど確認されなかった。事業実施区域においては、重要種の分布は見られないが、周辺海域において確認される。



□ 事業実施区域

出典：「響灘の自然環境・社会的状況調査報告書」(北九州市、令和2年3月)

図3.1-19 鳥類重要種の分布情報

ガン・カモ・ハクチョウ類については、環境省が毎年、全国でガン・カモ・ハクチョウ類の生息調査を実施している。令和元年度～令和5年度(5年間)の北九州市における調査結果を表3.1-41に示す。カルガモ、スズガモなどが多く確認されている。

表 3.1-41 ガン・カモ・ハクチョウ類の分生息調査結果概要（北九州市）

調査年度	コブハクチョウ	マガン	ヒシクイ	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ
令和元年度	5	0	0	88	563	528	196
令和2年度	11	1	1	45	334	603	388
令和3年度	10	0	0	92	857	2,142	230
令和4年度	4	5	0	206	1,234	2,729	210
令和5年度	7	0	0	100	272	922	89
	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ
令和元年度	2	16	555	69	161	562	689
令和2年度	8	56	518	131	45	196	138
令和3年度	2	51	530	146	78	471	221
令和4年度	7	1	403	622	50	135	151
令和5年度	16	19	920	151	69	182	101
	スズガモ	トモエガモ	ホオジロガモ	ウミアイサ	ミコアイサ	ツクシガモ	アメリカヒドリ
令和元年度	358	31	4	16	6	25	0
令和2年度	0	22	3	7	12	522	0
令和3年度	3,650	28	10	5	12	639	0
令和4年度	311	0	42	25	26	521	0
令和5年度	2,019	232	21	23	27	525	0

出典：「生物多様性情報システム ガンカモ類の生息調査」（環境省自然環境局 生物多様性情報センターHP、令和7年6月閲覧）

また、「風力発電立地検討のためのセンシティビティマップ」（環境アセスメントデータベース）によると、事業実施区域及びその周囲における海域の注意喚起メッシュレベル及び各メッシュで確認された鳥類の種類は図 3.1-20 のとおりである。なお、事業実施区域における注意喚起メッシュは評価対象外となっており情報はない。

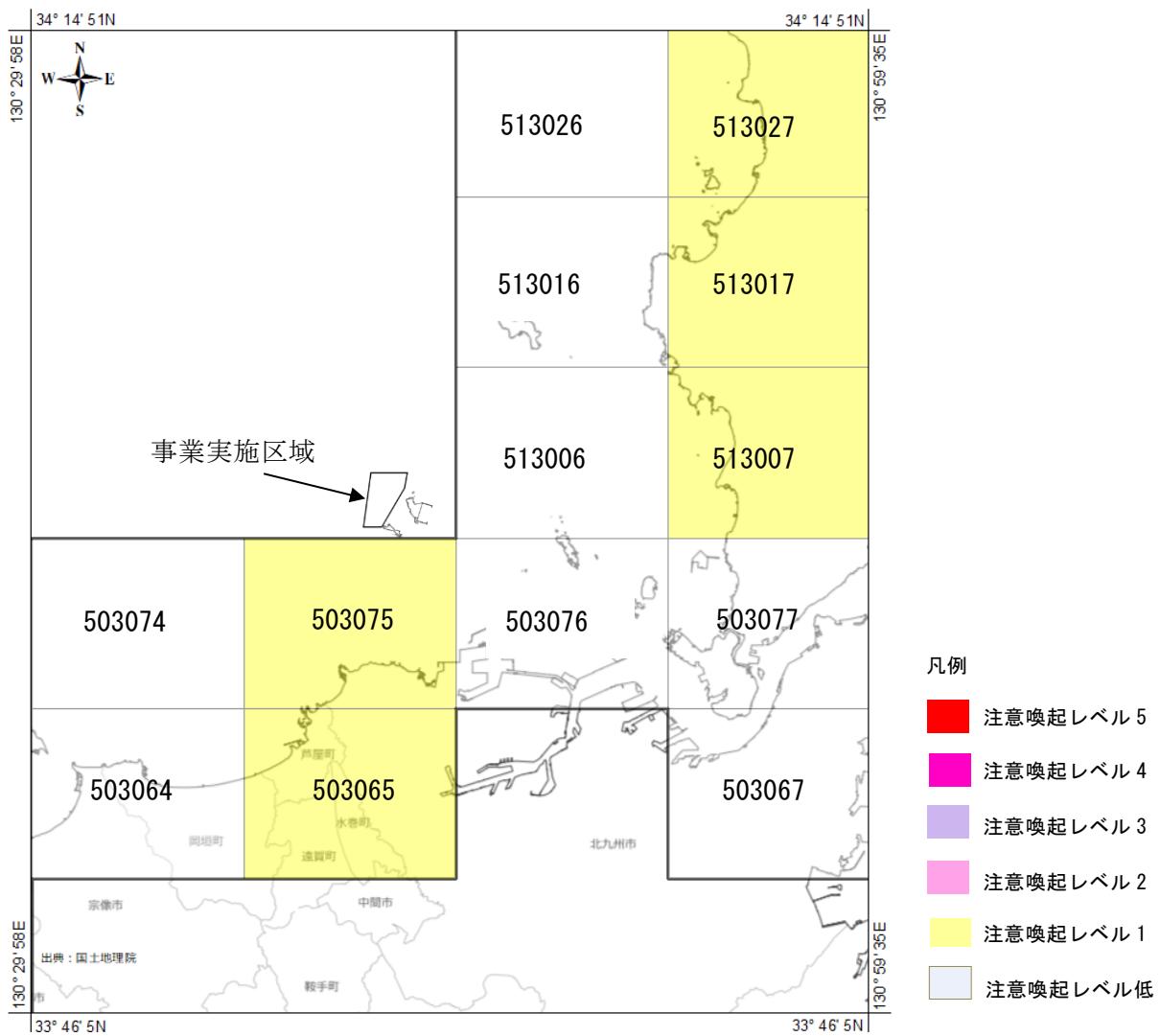
同資料による事業実施区域周辺における渡りのルートは図 3.1-21 のとおりである。事業実施区域には渡りのルートは見られない。

同資料による重要種の分布を図 3.1-22 に示す。事業実施区域には重要種の分布は見られないが、事業実施区域周辺にチュウヒの分布が見られる。

環境省の「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引きについて」によると、ハチクマ及びツルの渡り飛翔ルートが示されている。ハチクマの渡りについては、秋季、春季ともに九州北部を横断するルートが確認されており（図 3.1-23、図 3.1-24 参照）、事業実施区域周辺は、渡りルートの一部に該当する。

人工衛星を利用した遠隔追跡により得られたハチクマの広域的な渡りルートについての研究によると、青森県からマレー諸島までの渡り経路において、九州北部を通過することが確認されている。特徴として、秋の渡りは九州の陸域を西へ移動するが、春の渡りは朝鮮半島から九州北部に南下する違いが確認された（図 3.1-25 参照）。

一方、ツルについては、出水から諫早、伊万里、対馬に至る経路で九州北部を縦断するルートが確認されているが（図 3.1-26 参照）、事業実施区域周辺は該当しない。



出典：「風力発電立地検討のためのセンシティビティマップ」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和7年6月閲覧）

図 3.1-20 センシティビティマップ(注意喚起メッシュ(海域))

参考資料：「地理情報システム（GIS）：センシティビティマップについて」

◆注意喚起メッシュの作成方法

【重要種】

まずバードストライクとの関連性が高い種や生息地の改変に鋭敏な種を10種選定し、それぞれ程度の高い方から3、2、1とランク付けを行いました。

重要種の選定は、はじめに環境省レッドリストから絶滅危惧種・野生絶滅種に記載されている98種を抽出しました。次に、生息環境と陸域風力の設置場所との関係、バードストライクの事例の有無、風車との関連性（McGuinness et al. 2015）等から風力との関係が注目される重要な種として10種を選定しました。このうち、「個体数が極小」、「個体数が少なく減少傾向」、「生息地が局所的で生息地の減少の影響が大きくかつ生息環境が特殊」のいずれかに該当するイヌワシ、シマフクロウ、チュウヒ、オオヨシゴイ、サンカノゴイをランク3とし、それ以外の種については、国内でのバードストライクの事例が多いオジロワシをランク2、事例が少ないもしくは関係が不明のクマタカ、オオワシ、タンチョウ、コウノトリをランク1としました。

最後に、重要種が分布している10kmメッシュにその重要種のランクを付け、10種のメッシュを重ね合わせました。同一メッシュに複数の重要な種が分布する場合には、最も大きいランクをそのメッシュに付けました。

【集団飛来地】

集団飛来地については、ガン類、ハクチョウ類、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、ツル類（ナベヅル・マナヅル）、ウミネコの繁殖地、その他の水鳥類、海ワシ類及びその他の猛禽類を対象としました。水鳥類については、はじめにラムサール条約湿地に指定されている場所の個体数データ（モニタリングサイト1000調査）を基に、分類群ごとに個体数の基準を3、2、1とランク付けました（個体数の多いものはランクが高くなります）。

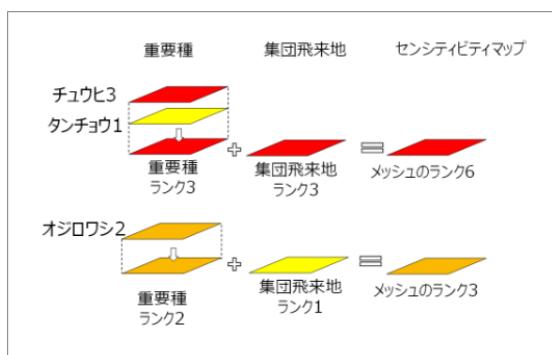
同様に、海ワシ類は「2016年のオオワシ・オジロワシ一斉調査結果について」（オジロワシ・オオワシ合同調査グループ、平成28年）の個体数データから、猛禽類は「平成27年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書、風力発電施設立地適正化のための手引きに関する資料」（環境省自然環境局野生生物課、2016）の個体数データから、個体数の基準をランク付けしました。

これらの基準を用いて、現地調査結果や文献による個体数データについて10kmメッシュごとにランクを付けました。

なお、集団飛来地のヒアリング調査結果の情報があるメッシュは一律ランク1を、集団飛来地に関連するラムサール条約湿地及び国指定鳥獣保護区は一律ランク3を付けています。

【重要種と集団飛来地の重ね合わせ】

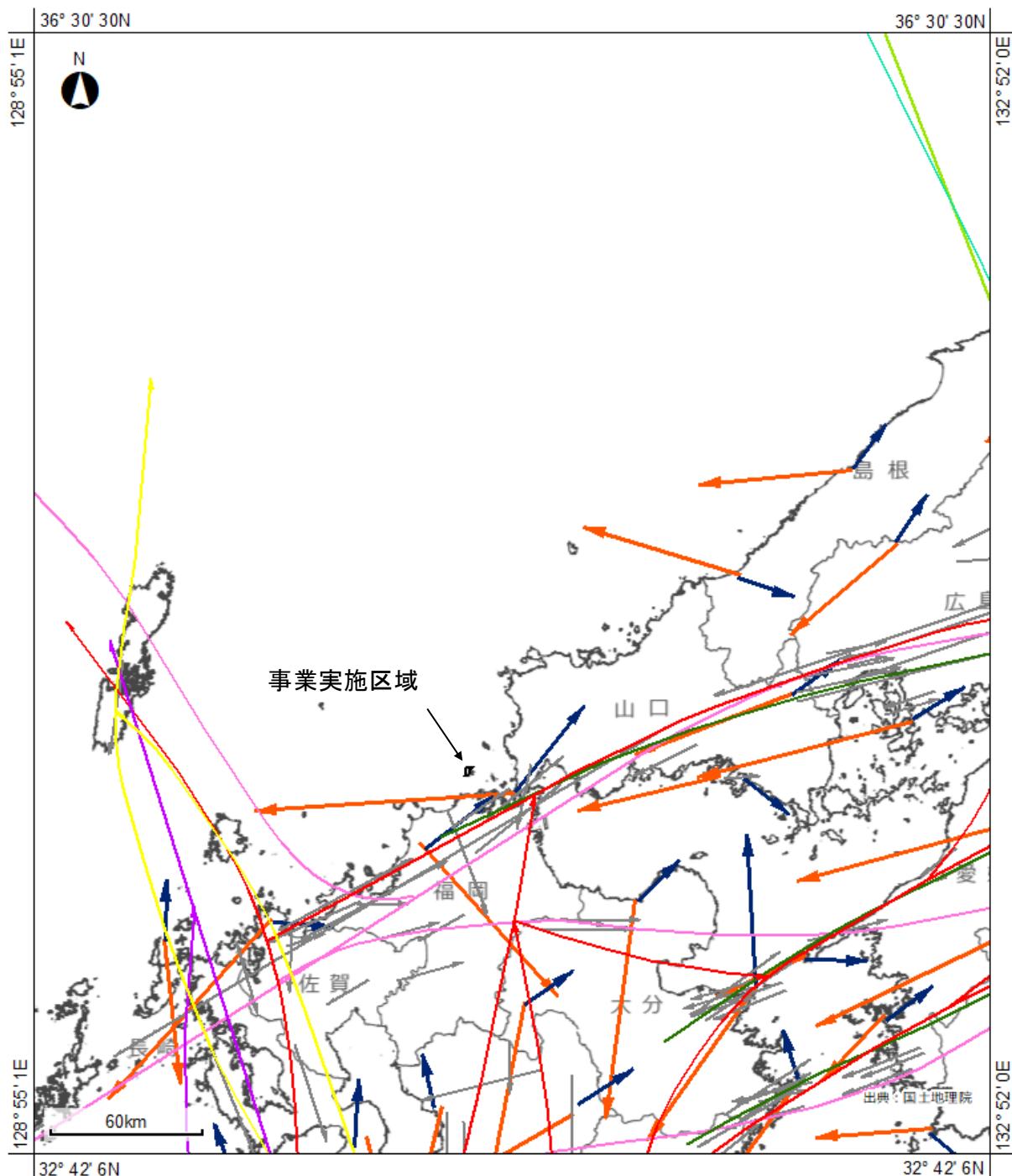
最後に、メッシュごとに重要種と集団飛来地のランクを合計して、メッシュのランクを決定しました。メッシュのランクに応じて、注意喚起レベルを決定しました。



メッシュのランクと注意喚起レベル

メッシュのランク	注意喚起レベル
6	A1
5	A2
3~4	A3
2	B
1	C
0	情報なし

出典：「地理情報システム（GIS）：風力発電における鳥類のセンシティビティマップについて」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和7年6月閲覧）



凡例

日中の渡りルート [ハクチョウ類]	日中の渡りルート [ツル類]	日中の渡りルート [サシバ]	日中の渡りルート [ハチクマ]	夜間の渡りルート [春季]
→ ハクチョウ類	→ ツル類	→ サシバ	→ ハチクマ	→ 夜間の渡りルート (春季)
日中の渡りルート [ガン類]	日中の渡りルート [アカハラダカ]	日中の渡りルート [ノスリ]	日中の渡りルート [その他猛禽類]	夜間の渡りルート [秋季]
→ ガン類	→ アカハラダカ	→ ノスリ	→ その他猛禽類	→ 夜間の渡りルート (秋季)

出典：「風力発電における鳥類のセンシティビティマップ」（環境省、環境アセスメントデータベース、令和7年6月閲覧）

図 3.1-21 鳥類の渡りのルート